外国の出版事情

西澤正之

1．海外の医学書出版について

医学書院の西澤でございます。私は今申しましたように医学書院という出版社で働いておりますが、ずっとやっております仕事は外国からの書籍や雑誌の輸入の仕事です。従いまして和書の出版につきましてはあまり詳しくありませんので、今回は外国の出版社の、あるいは出版の最近の流れや動きについて簡単にお話したいと思っています。これは話としましては大変大きな話題でございまして短時間にどんな風にお話しようかと考えて参りましたのですが、いくつかの問題に絞ってお話ししたいと思います。

今、日本でよく読まれている、使われています外国の出版物はそのほとんどがアメリカ、ヨーロッパのものだろうと思います。その他のところでもたくさん医学書が出版されているわけですが、言葉の問題やレベルの違いもあってあまり日本に入ってきていない状態です。また、今日本に入ってきている書籍、ことに医学書の場合はその98～99％が英語で書かれたものです。そして、多少ドイツ語、フランス語が入ってきます。それ以外の言語はほとんどないだろうと思いますね。その英語出版の中でことに輸入が多いのがアメリカで出版されたものです。

そのアメリカで、今さまざまな変化が起こっています。その特色をかいつまんで申し上げましょう。医学書出版社、いわゆるProfessional Publisherといいましても、最近の経済の流れの中にとりこ

まれているわけですから、その経済の流れの影響を受けています。皆さんもよくご存じの多くの有名な医学書出版社が買収とか吸収とか―これをM＆Aといいますが―そういった嵐の中に引き込まれて経営的に大きな問題を抱えています。これは直接的には私たちに関係ないように思えるかもしれませんが、実は関係があるのです。私どもの仕事―どういう本をどうやって仕入れるかということと関係があるのです。いい本を出版するためには、いいPublisher,編集者が必要です。そういう人たちの働きによるところが非常に多いのです。ところが、企業の合併とか吸収とかが進む中でかなり優秀なPublisherが消えていってしまうといったことが起きています。つまり、一般的に出版人といわれる人たちはちょっと癖があったり、個性が強かったりして、なかなか通常の管理社会の中になじみにくい、そういう人たちが割合多いのです。従って、そういう組織から離れていってしまう人が多いわけですね。今、お配りしております資料にリストされている出版社―imprintといいますが―の大部分といってもいいかと思いますが、実際にはもう既に大きないくつかのグループに分

にしざわ　まさゆき：医学書院洋書部長

かれてしまっているのですね。今まで聞いたことのないようなグループに統合されてしまっています。従って、以前のようには出版活動に専念しにくい状況が起きています。他にやらなければならないことがたくさんあるといった状況のなかで、残念ながら我々にとっていい本が出版されていないのです。例えば、このなかにあるMosbyという会社とYear Bookという会社ですが、これは新しくMosby－Year Bookという会社になり、来年１月からは本のimprintもMosby－Year Bookという新しい会社になります。これは昔からTimes Mirrorという大きな組織の中にありまして、これが去年の11月に合併をしたということです。このようにさまざまな形で出版社が急激に変わってきています。私たちになじみの深い出版社、imprintが次第に消えていっています。Grune & Strattonという名前も多分もう聞かれないでしょうし、John Wrightという名前も出てこないでしょう。これは皆、先ほど申し上げたM＆Aの中で消えてしまったのです。そして、このことは単に名前が消えてしまっただけでなく、多くの優秀なPublisherが消えてしまったということなのです。これは海外のことですが、日本でも同じ状況にあると思うのです。医学の出版に関して申しますと今話題になっているのは、世界中で本が、医学書が多すぎるということなのです。で、彼らはそういう中でどういう本を出したらよいかという悩みが非常に強いのです。何を出したら売れるか、非常に悩んでいます。

２．各国の医学書出版社

私どもの医学書院が現在取引をしている海外の出版社は、恒常的に取引をしているところだけでも250社ぐらいあります。それらの出版社から１ヵ月間に受け取る新しい本は改版も含めてですが、平均200点くらいです。だから、１年間に取り扱っている新しい本は2500種ぐらいあるわけですね。そういう中からいい本を選んでいくのが私どもの仕事なのですが、このような情報の洪水の中からどのように本を選んでいくのかが今後の課題といえるでしょう。

この資料の中の出版社それぞれについて説明をしていったらよいのですが、時間がありませんので少しまとめてみます。

出版社を大きく分けますと、一つには完全な専門医書出版社があります。医学出版社とアメリカでいいます場合には、これはHealth Scienceといいまして、必ずしも医学だけでなくてその関連分野―看護とかパラメディカルなどのあらゆる場で活躍している専門出版社ですが、代表的なものが、W.B.Saunders、Mosby－Year Bookなどですね。もう一つがかなり大きな出版社の中に医書出版部門をもっているものです。この中ではMcGraw－HillあるいはJohn Wiley & Sonsなどがそうです。McGraw－Hillというのはどちらかといえば経済関係に非常に強い出版社ですね。イギリスの場合には総合出版社というのではなくて医学書出版というのは完全に独立しています。例えば、Churchill－Livingstoneという会社がありますけれど、これはLongmanという会社の下にあります。Longmanという会社は文学関係とか英語教育に関する本を出していますが、Churchillは医学系という風に割合にきっちりしています。

私どもが扱っていますのはアメリカ、それからカナダもちょっと扱っています。しかし、大部分はアメリカですね。ヨーロッパでいいますと、かなりの部分はイギリスです。先程もちょっと触れましたけれど、癖のある出版社が消えていってるとか、なじみのない会社になってきていると申しましたが、そういう中で比較的居心地がいいのが大学出版局です。私などが期待してるのはOxford大学の出版局―Oxford University Pressなどですね。あまり聞きませんけれどCambridge大学などの出版局もそうです。こういうところから皆さんもご存じのようなかなりいいものが出ています。さらには、ＩＲＬ、これはOxford大学の出版局が買収した会社ですが、非常に最先端のProtein Engineeringとか遺伝子の問題を扱った、Currentな話題性に富んだ、つまりCurrent Topicsを扱った出版物を出しています。このような分野は１年間で状況が変わったり、知見が変わったりしますので、非常に小さな薄いペーパーバックのような形の出版物が多いのです。そういう意味で大変特色のある出版社といえます。ちなみに、そのIRL

をやっている人たちというのはAcademic Pressなどでバリバリやっていた人たちが先程もいいましたような事情でそこを出て起こした会社です。M&Aが生みだしたいいPublisher集団であるということはいえると思います。

ドイツについていいますと、もうすでにハードルは超えていると思います。一番大きなハードルだったのはどうすればInternational Publisherに脱皮していけるかということだったのです。つまり、いかに英文出版に切り換えていけるかということだったのですが、これはもう7～8年前にクリアーしたと思うんです。今、ドイツの出版社の中に二つの流れがありまして、一つはInternational Publisherを目指そうという流れ、もう一つは国内だけをマーケットにしたドイツ語の出版物を出していこうとする流れです。このような中で、私たちになじみの深いSpringer－Verlag、Georg Thieme、Urban&Schwarzenbergなどは大部分がアメリカに支社を持っていまして、アメリカでの出版活動をかなり活発に行っています。ちなみに今申し上げましたUrbanは非常に有名な伝統のある老舗なのですが、これはWilliams&Wilkinsという会社に吸収されましたので、来年あたり又流通が変わってくるのではないかと思います。このように吸収合併が日常茶飯事になってきています。

もう一つ私どもの大きな仕入れ先にオランダがあります。オランダにはオランダ語が勿論あるのですが、あそこの人たちは英語でよく仕事をしておりまして、英文出版が非常に盛んなのです。ことにElsevier Science Pub.は—この会社は雑誌の出版が中心ですが—本の方はNew Yorkにある会社でやっておりまして、これは昔から英文出版を盛んにやっています。ちょっと面白いのはフランス語にあれだけ誇りを持ってきたフランスの出版社ですら英文出版に切り換えている。このようにヨーロッパの出版社の抱える問題はどのように英文出版に切り換えるかということなのです。成功したところもあれば、失敗したところもありますけれどね。

あとスカンジナビアがありますけれど、大部分はデンマーク、スウェーデンの雑誌を中心とした英文出版ですね。その他、東ヨーロッパには結構伝統的な出版社があります。ことに、東ドイツには伝統のあるいい出版社があるのですが、残念ながらまだ英文出版はされていません。東ヨーロッパでこの他に割合医学のレベルが高くて医学書もよく出しているのがハンガリーです。

それから、中近東ではイスラエル、テルアビブで国際会議などもよく行われまして医学のレベルも割に高いし、出版もよくされているところです。アジアでは医学の分野では残念ながら日本のマーケットにぴったり合うようなものはまだあまりありません。例えば、インドあたりは大変盛んなのですが、マラリアとか熱帯病とか日本の医学とは分野の違う出版物が多いようです。お隣りの韓国でも現在英文出版がだいぶ盛んになってきました。日本にもいくつか入ってきています。韓国の出版社の名前にはなっていなくて、アメリカの出版社の名前ですけれど。あと、大きなところではオーストラリアがありますが、これは大体イギリスを通して入ってきますので、オーストラリアという国の出版物という風にはなかなか識別できません。

これが、非常に簡単ではありますが、それぞれの国の出版の状況ではないかと思います。

3．最近の出版傾向—Books, Journals, Electronic publishing—

それぞれの出版社はまたそれぞれの多くの問題を抱えているわけですが、それでは今からどういう風にやっていこうとしているのか、についてちょっと触れたいと思います。

一つの流れとして先程も発表がございましたが、出版の中にＣＤ-ＲＯＭとかコンピュータを使って電子出版をしていこうという流れがございます。実際にはアメリカでは既に市場に出ている商品がかなりあります。これはちょっと日本ではなじみにくい点がございまして、一つには現在出ていますのは自己学習、自己研修のプログラムが多いんですね。こういうところが内容的には日本に向かない点です。もう一つはハードの問題がございます。ＩＢＭ仕様のソフトは日本のハードにはまだなじみにくいところがございます。しかし、この形はますます活発になってくるだろうとは思いま

す。既に雑誌などではＣＤ-ＲＯＭの形態で出ているものがいくつかあります。例えば、最近２年くらい前に出たOncoDisc－これは腫瘍関係の雑誌ですけれど－はＣＤ-ＲＯＭの形に収めて２ヵ月に１回Up－Dateしています。この雑誌はいろんな先生方にみていただいたのですけれど、内容的には高い評価を得ている雑誌です。しかし、まだちょっとハードの問題がありまして普及していません。いずれにいたしましても、この傾向はますます強くなっていくだろうと思います。それから本についてですが、先程も申しましたようにどんな本を出したらいいだろうと皆んな悩んでいるわけです。ですから、最近では特色のある企画といったものが出ていませんね。例えば、ＣＴやＭＲＩが出ると誰もがＣＴやＭＲＩの本を出すといった、私たちにとってはちょっとつまらない傾向にあります。そんな中でアメリカの出版社がやろうとしている一つの流れがあります。これは私など非常に危険だなと思うのですけれど。つまり、改めて教科書出版をやろうとしているのです。これはあまり日本では通用しないと思います。日本語の本がたくさんあるのですから、英語で書かれた教科書は特に必要ないと思うのですけれど、そういう流れがある。Oxford大学の出版局でも今、大きな教科書を作ろうとしています。これはTextkookという名前をつけていますけれど、何も学生が使う教科書という意味ではなくて、百科事典風なものを出そうということですね。また特徴的なことは、今までは海外マーケットを対象とした企画があったのですが、例えばある会社は売上げの４割くらいは輸出といったこともあったのです。ところが、為替の問題とかいろいろありまして、海外マーケットにあまりにも依存することは経営的には芳しくないという考え方が出てきました。国内マーケット中心にやろうとしているんですね。そして、国内のマスマーケット―例えば看護分野やパラメディカルの分野、アメリカなどですと大きなマーケットとしてカイロプラクティックスがありますね。そういうところを目指した出版が大変多くなってきています。ですから、私どもが買いたい本が少なくなってきています。

こういうことが何故起こってくるかといいますと、やはりＭ＆Ａ等の影響があるのではないかと思います。昔は出版社のボスは出版人、Publisherだったのですが、最近は大体財政、財務関係の人が中心になっていますから利益やコストにうるさくなってきているのですね。それも１年ないし２年単位でチェックされるということがありますので、大きな企画が出しにくい事情があるんだと思います。そんな事情から手近ですぐに結果が出る国内のマスマーケットを対象にしがちで我々にとってはあまり面白くない傾向がでてきています。この傾向は主としてアメリカで強く、イギリスでは相変わらず臨床系のものを求めている会社が多いと思います。

それと、もう一つ医学の出版傾向として彼らが意識的に目指そうとしているのはBasic Science、つまり基礎医学関係のものですね。例えば、分子生物学や遺伝子関係、あるいは免疫学や蛋白工学関係のものですね。つまり今までの医学と生化学、生物学の境界線をねらったものですね。かなり専門的な出版社はその辺りをねらっています。

また、一般的にいってそれぞれの出版社が目指しているのは売上げのなかで雑誌の占める割合を高めようということです。つまり、これからはますます雑誌中心の商売をしていこうというのが一般的な傾向、あるいは戦略となっています。しかし、雑誌といいますのはなかなか難しくて、新しい雑誌を作ろうとする場合には市場調査だけでも10年ぐらいかかる、一度発刊したらなかなかやめるわけにもいきませんし、危険も多いわけですね。それで、今流行りなのはもっと安易な方法で雑誌を出すということです。つまり、皆さんもご存じのように雑誌はかなりのものが出版社の自前の雑誌ではありません。学・協会誌が多くて、それをそれぞれの出版社が扱っている、それも学会と話し合いながら扱っているのです。出版社はその辺りの配給権の取り合いをやっているのです。つまり、既存のものをとってくるわけですね。こういうのが彼らの一つの戦略になっているのです。我々購読者として迷惑なのはある雑誌の出版がいろんな出版社にたらい回しにされることなのですが、こういうことがこれからはよくあるかもしれません。出版社としては新しい雑誌を出すのも大事だ

けれど、一番手っとり早い方法は既存のものの配給権、出版権をもらうことなのです。だから、これが一つの戦略として成り立つのです。

それと、もう一つドイツでは昔からドイツ語で書かれた伝統のある医学雑誌があるのですが、このような雑誌ですらInternational Journalに切り換えようと、つまり英文雑誌に切り換えようとされています。だから、ますますドイツ語の雑誌はなくなるだろうと思いますね。例えば、Wochenschrift～とかZeitschrift～というドイツ語で書かれた雑誌がこれからはどんどん英文になっていくだろうと思います。これはいろんな出版社、Thiemeなどの出版社の経営者が明言してます。やはり彼らは国際マーケットを目指しているわけですね。英文に切り換え、Contributorとして世界のいろんな人に参加してもらうといった気運が新しい傾向としてあります。例えば、日本の先生がいろいろな分野にいろいろな形で参画しておられますけれど、実際に日本Originalで創刊された雑誌にOxford大学の出版局から出ている免疫学の雑誌でInternational Journal of Experimental Immunologyというのがあります。これは日本の先生方がなさった仕事ですけれど、まさに日本で出されて国際的に通用している雑誌になっています。

4．価格について

次に皆さんが興味を持っていらっしゃるだろう価格についてちょっと触れます。

特に雑誌について申しますと、これはアメリカの出版社に多いのですが、二重価格をとっているところが大変多いのです。つまり、国内で売る値段と輸出値段が違います。出版社によって違いますが、大きな出版社ですと海外で売る値段の方が国内値段の25％以上も高くなっています。これがいろいろな問題を引き起こしていることにもなっているのですが、この辺りは我々輸入業者も納得できるものではありません。そこで、出版社とはずっと話合いを続けているのですが、ある出版社については値段を一本化するというような約束をしているところもありますけれど、まだまだ多くの問題を抱えています。このような書籍における国内値段と輸出値段の違いを説明する論理としては、彼らの主だった説明では国外に出す時のいくつかの手続きにともなう諸掛を外国に出す時には料金に加算するのだといっています。しかし、これだけではなかなか納得できるものではありませんので、これについては今後も話合いを続けて値段の一本化を目指していかなければならないと思っています。雑誌についてはこの他にもいろいろややこしい話がありまして、施設の値段と個人の値段が違ったりしますね。個人の値段が施設の値段の半分以下だったりいろんなケースがございます。これはまた誤解を生んだり質問をよく受けたりするところです。しかし、これは出版社、特に学協会誌が多いので学会の考え方によるもので何ともしようのないのが現状です。事務を取り扱っている私どもといたしましても非常に煩雑なのですが、学会としてはなるべくたくさんの人に読んでもらいたいということがあるんでしょうね。

もう一つには学生向けの値段というのがあります。研修やトレーニング中の人向けの値段が設定されている場合もあり、極端な場合には4種類も5種類もの値段が1種類の雑誌についています。これはそうすることによってその雑誌をなるべく普及していこうという考えがあるのだと思います。これと私どもが経験している事務の煩雑さの兼ね合いをどうとっていくかが課題ですね。今でも随分混乱があるのですが、これらのことにつきましては図書館関係の方たちの間でも問題になっているようですし、つまりこの差別価格については我々輸入業者としましては将来何らかの解決策を講じなければならないと思っています。

5．本の流通について

本の流れについても最近は従来とは大変変わってきています。ご存じのように為替管理法とかいろいろなシステムが変わってきていますし、クレジットカードもこれだけ普及する時代ですから簡単に本が買えるようになってきています。

一つの傾向としましては、これは私どもにとりましてはあまりいい現象ではありませんが、外国の出版社が直接日本の購読者と取引きをしようとする流れはあるような気がします。例えば、

Natureという雑誌やElsevierのTrendものの雑誌などはエージェント経路を受け付けておりません。個人しか受け付けないのですね。出版社が直接日本のマーケットに入ってくるといった流れは今後盛んになってくるのではないかと思います。そうなりますと、私どもの商売はなかなか立ちゆかなくなるんですけれども、一つの傾向としては認めざるを得ないところです。そこで、現在は情報の流通を主な仕事としておりますし、今日のお話もそういった観点からいたしましたが、今後は医学分野の情報の提供者、また情報の整理係、こういうものが私どもの新しい役割かなと考えておりますし、そのためにはどういったことをしていったらよいかを考えてもおります。

流通の中でこの他にお話しておくことといたしましては外国から本を取り寄せるための時間が大変短縮されたことが挙げられます。現在、多くの雑誌や本は航空貨物で取り寄せられており、私どもの経験ですと電話がありましてから大体2週間ぐらいで入ってきます。ただ、昨日も電話がありまして頭を抱えているのですが、今イラク・クウェート問題がありまして石油の関係から航空運賃が上がっているようなのです。しかし、いずれにいたしましても前よりも随分早く本が入ってくるようになりました。

以上、簡単ではございますが本の出版の状況につきましてお話させていただきました。ちょうど時間になりましたので、あとは質問にお答えするかたちで補足したいと思います。

「質問1」

雑誌には国内価格と海外価格があるのはよく分かりましたが、文献検索などをしていて国内版と海外版では内容も違っているのではないかと思われることがあります。ある文献がとてもいい文献だったのですが、当院の該当雑誌には見あたりませんでした。たまたまその雑誌は寄贈雑誌だったため確認はしていませんが、もし講読している雑誌であった場合、国内版が欲しいというような指示はできるのでしょうか。

A．これはCase by Caseでしょうね。コマーシャルベースでは受け付けないということです。しかし、そういう事情をむこうに伝えれば有料か無料かは分かりませんが、向こうの好意で、例外的な扱いとしてやってくれると思います。最近ではこういうように国際版と国内版で内容が違うものがあって混乱が起きることがあります。先に申し上げましたElsevierの「Trend」という雑誌などはLibrary EditionとPersonal Editionでは内容が違っています。これはまだ医学だからいいんですが、“蘭”なんかの同好会の雑誌などですと、照合はできましてもなかなか入手できません。ただ、今の状況ですと大概のものは突きとめられるし、入手もできると思います。

「質問2」

来年の外国雑誌の契約時期になっているのですが、東ドイツの出版社はどうなっているのでしょうか。「人民出版」とかそういうのが今度はずれるわけですよね。西ドイツの出版社と一緒になるのでしょうか。

A．その辺りはまだはっきりしていないですね。今おっしゃった「人民〜」というのはBUCHEXPORTという国立の外国へ本を出す会社のことですね。これはまだあります。解散しているわけではありません。では、先々どうなるかということですけれど、大体ドイツの出版社の中心は今まで東ドイツなのです。Thiemeという会社もLeipzigで東ドイツですね。Fisherという会社もそうですね。先々この会社は一緒になるのではないかと思います。Springerも東ドイツにもありますね。来年どうなるか分かりませんけれど、ほとんどが西側と一緒になるんではないかなと思いますが。それと、もう一つ心配なのはドイツマルクの統合などで今東ドイツは経済的に大変恐慌を来しているわけで、かなりの出版社がつぶれるのではないかということです。ですが、出版物についてはまだ国の方針の下にやっていますからね。あと、数ヵ月もすればもっとはっきりするのではないかと思います。出版社の人たちから聞く範囲では一緒にやっていくんだというようなことをいっておりますけれどね。

また、Thieme（Leipzig）などでは、英文出版などの可能性も大いにありますし、これからは

多分西ドイツ、東ドイツというように分けて考えるのではなく、ドイツということで考えていったらいいのではないかと思います。

「質問３」

英語圏以外の国で英文出版が盛んになろうとしてる、Internationalな出版を目指しているというお話でしたが、日本ではどうなのでしょうか。

Ａ．この辺りが日本人としてちょっと残念なのですが、現在はあまり活発には行われていません。日本には優秀な医師や研究者がたくさんおられるのですが、まだまだ世界に向けてそういうものを発表はしていません。最近少しづつではありますが増えてはきているのですけれど。また、日本の出版社が世界に向けて本を出していくことも現在はあまりないですね。ただ、外国出版社の出先機関の人たちがいろいろアレンジして向こうの出版社から本を出すといったことはあります。では、日本の出版社が全く英文出版をしていないかといいますと、そうではなく私どもでも出してはおります。

時には向こうの出版社が、例えば、Lea&Febigerという会社が日本の本に興味を持って彼ら自身が選んで英文に切り換えて出しています。ちょっと面白いですね。

「質問４」

書籍の価格の設定についてお尋ねします。アメリカなどは州によって書籍や雑誌の価格が違うと聞きましたが、一体アメリカの書籍の価格設定はどうなっているのでしょうか。

また、特にアメリカの雑誌を日本で買う場合に国内価格と違うとおっしゃられましたが、では海外価格の設定の根拠はどうなっているのでしょうか。それと、最近エージェントものが多くなってきましたが、価格に及ぼす影響があるのではないかと思います。その点もあわせてお尋ねします。

Ａ．まず、アメリカの州によって書籍価格が違うという点ですが、これは本は確かにそうですね。これは再販価格でも何でもありません。アメリカにも日本でいう東販や日販のようなものがありまして、そこを通して本が流通しているわけですね。その際、彼らの買付けの値段が異なるのです。価格自体は一定なのですが、それが異なるために州によって同じ本の値段が違うといったことが起きるのですね。しかし、雑誌の場合は出版社と購読者の直接取引きですから、どこの州でも価格は同じです。

また、雑誌の国内価格と海外価格が違うことは先程お話をいたしましたとおり、設定値段そのものが初めから異なるわけですね。これは出版社によってパーセントが異なります。二重価格をとっていないところから25％ぐらい海外価格が高いところまでさまざまです。

おっしゃるように最近外国雑誌のエージェントが増えてきましたが、エージェントが出版社に雑誌をオーダーする際にも前金払いなのです。また、外国に駐在員を置いて航空便の手配をしたり、いろいろなことをやっていますので、それにかかる費用を加算して価格設定をしているのだろうと思います。エージェントだけが儲かっているということではないと思いますね。雑誌というのは大事な商品ではありますが、もともと欠号、未着がなくて少し利益がある程度の利の薄いものなのです。また、注文を受けて１年以内のトラブルは引き受けたところが責任を持って処理すべきだと思いますし、そういう意味での費用も決して無視できないと思いますね。

Major Medical Publishers

NORTH AMERICA

Academic Press, Inc., Orland
American Psychiatric Press, Inc., Washington, DC
Appleton—Lange, Norwalk
Churchill Livingstone, Inc., New York
F.A. Davis Company, Philadelphia
Brian C. Decker, Inc. Hamilton
Marcel Dekker, Inc., New York
Elsevier Science Publishing Co., New York
Futra Publishing Co., Mount Kisco
Lea & Febiger, Philadelphia
J.B. Lippincott Co.,Philadelphia
Little, Brown & Co., Boston
McGraw—Hill Book Co., New York
Mosby—Year Book Co., St. Louis
Oxford University Press, New York
Plenum Publishing Corp., New York
Raven Press, New York
W.B. Saunders Co., Philadelphia
Springer—Verlag, New York
Thieme Inc., New York
John Wiley & Sons Ltd., New York
Williams & Wilkins Co., Baltimore

EUROPE

Edward Arnold Ltd., Kent
Blackwell Scientific Publications Ltd., Oxford
Butterworth—Heinemann, Oxford
Doin Editeurs, Paris
Elsevier Science Publishing Co., Amersterdam
Verlag Hogreffe & Huber, Bern, Toronto
S. Karger AG, Basel
Kluwer Academic Publishers Group, Dortrecht
Gower Medical Publishers, London
Martin Dunitz Publishers, London
Munksgaard International, Copenhagen
Oxford University Press, Oxford
Pergamon Press Ltd., Oxford
Piccin Editore, Padova
Springer—Verlag, Heidelberg
Georg Thieme Verlag, Stuttgart
Urban & Schwarzenberg, Muenchen
VCH Verlag, Weinheim